



富士山の寄生火山二子山で練習。

スピードパラで高高度もアリなのか……!

ここ数年話題になっているスピードパラ。日本では木島平と杵池のスキー場で体験したり教わったりすることが出来ます。ばくも1月のある日、木島平でスピードパラの試乗会があるというので、このご出かけたクチです。

その日見たのは、木島平山頂からのフライトでした。スピードパラというのは雪の斜面上をそこに飛んたり滑ったりするものと思っていたので、高高度のフライトには驚きました。飛んでみせてくれたのはファルホーク社の岡さんと、木島平スタッフの根津さん。2回転も見せてくれました。スピードが速いのに驚きましたが「落ち具合」がすごいのにびっくりしました。

体験して面白かったので、木島平にはその後2回ほど行ってスピードパラの練習をすることができました。清水校長が何度も言ったのは、



富士山登頂前に撮影。今年は雪が多い

「スピードパラはパラグライダーです。体重移動のできないパラグライダーです」ということでした。

山飛びにトライ

ヨーロッパアルプスの連中は当然のように山で飛んでいて、そんな動画がたくさんネットに流れています(アイガー山の映像はすごい)。ばくも春になったら富士山から飛んで(滑って)みよう、と思いました。以前、夏の富士山頂からふつうのパラで飛んだことがありましたが、それに比べたらスピードパラは雪の急斜面上の低高度滑空。「楽勝」という予測ができました。

3月に富士山腹の寄生火山である二子山へ行ってみました。昔、御殿場市民スキー場があったところ。その日は風もよく数回練習することができました。面白かったです! 山スキーヤーの人たちが「スゲー!」と驚いていました。

翌々週は二子山のもつと上にある宝永山に登りました。ガスが出ていましたが、そここの視界。いつも通りグライダーを広げ、スタートしたのですが、あれ? 開かない? そのままグライダーを引きずって滑落。スタ沈です。今までの練習で滅多に失敗したことがなく、スピードパラは勢いよく出れば必ず開く、という自信が崩れました。フォロワー

興味で2回目も失敗、3回目はうまくいき、飛べるころまで一気にフライトして降りました。クロスは難しいのでフロントで出るのですが、雪の斜面で風が

富士山頂からスピードパラで滑空の快感!

あると手助けなしのテイクオフはやっかいです。アイガー山頂でスタ沈したら即死なんだろうな、ふと思いました。

4月になって、山は春スキーのシーズンです。木曾の御嶽山へスキー仲間と出かけました。山頂は3067m。山頂下から霧にかすむ一池へ飛んでみました。短いフライトのあと、ガスが切れるのを待って森林限界まで飛んだり滑ったりしました。快適でした。

4月末は、北アルプスの立山へいきました。こも風とガスに悩まされましたが、雷鳥沢一の越からフライト&スキーができました。いい気分でした。一連のトライで、「山は天気が悪い、天気がよくても風がある」という当たり前のことを確認することができました。

いよいよ富士山へ

5月に入って連休後半は、いよいよ富士山。4日と6日が比



富士山山頂到着。この直後、奇跡的に風が収まった。

吉田大沢上をあまり高く上がらないように左右に振って滑空。



グライダーがずり落ちないように押さえてもらう。吉田大沢トップからスタート!



グライダーはオゾン・バレット12。浮き加減はいくつもの方法でコントロールできる。



雲海に向かって飛ぶ、滑るいい気分!!



吉田大沢は山スキーヤーにとって天国だ!



「飛べないときもスキーで下れるので損はありません」と伊藤フミヒロ氏。

やったね! という感じで、2回目のフライトは、フォロワーが入ってきて、無理やり出ましたが、失敗、滑落してすぐ止める。吹き降ろしが収まりそうにないのでスキーではらく下りました。2800m地点、岩壁の下で風を避けて再びスタート、何十秒間のフライトで高度を下げ、2500m付近で岩が出てきたため雪の上に着地しました。

吉田大沢は標高差1400m、長さ4kmほどの一枚バンの日本一の滑り台と言われています。スキーパラには最適なスロープで、風向きさえよければ安全な「滑・空」が楽しめます。



スキーはテレマークを使用。ヘルメットカメラで撮影した。

く風が収まる気配があったので、とりあえずパラを開いて、スキーヤーが降りてくるのを待ち伏せ。山頂で二言三言交わした人がやってきたので、「グライダーのこんなところをつまんでくれないませんか」とお願い。1回目はちよつと無理して出ましたが失敗。グライダーが前にかぶって失敗したのは、いままです100本ほど飛んで初めてのこと。2回目は、短いフライトができましたがこれも失敗フライトでした。

そして、5月18日。やっとうまくいきました。この日は前からスキー仲間と吉田大沢を滑ろうというプランがあったので、スバルライン終点で待ち合わせしました。5人が予定どおり集まり7時スタート。吉田口山頂には2時着。

山頂でみんな「...?」キツネつまれ状態。登っている間は怪しい風が吹

いたりすることもあったのに、今はほとんど無風です。「奇跡!」「チャンスチャンス!」と休憩もなしで、走るようにお鉢リートをトラバースして吉田大沢トップへ。富士山頂剣ヶ峰は3776m、こは3710m、富士山のお鉢の縁、「なんちゃて頂上」ですが、こし

早速パラを広げて準備。つるつるの雪面だから誰かに持つていてもらわないとグライダーがするすると落ちてきてしまう。サポート隊の今回ののもつとも重要な任務がグライダーをつまんでいること。

やったね大成功!

相変わらずあたりは静か。弱いフォロワーが収まるのを待って、「せーの!」でスタート。あつ、という間に浮きあがつて、あとはいつものとおり。あまり高く上がると怖いので右左に振って高度を下げます。写真を撮るために何回かに区切って下る約束があったので500mほど下ったところで着雪。

近年「バックカントリー」という遊び方が流行っている。スキーやスノーボードで、ゲレンデ外の人の手が入っていない自然のままの山を滑るスタイルだが、これをスピードパラで、しかも富士山でやってみたというレポートが届いた。春の富士吉田大沢は、山頂からの標高差は1400m、長さ5kmという大スケール。そんな日本一大きな滑り台をハイスピードで大滑空! スピードパラの遊び方が、またひとつ広がった!

事前に御嶽山や北アルプス立山でリハーサルを行った。
【編集部注】スピードパラをスキー場外で実行する場合は、雪山の知識と経験が必要です。また単独でのフライトはやめましょう。

SPEED FLYING at Mt. FUJI

レポート:伊藤フミヒロ(河口湖オクシークラブ) 写真:小松平陸、川崎博
使用機材:オゾン・バレット12+シンレッドラインハーネス+K2スーパースティンクステレマーク

動画も要チェック!

伊藤フミヒロ氏が、今回のチャレンジをヘルメットカメラで撮影した動画をYouTubeに投稿している。「itokisya」で検索すれば見られるぞ。

Ski-gilding the Mt.Fuji,3776m
http://jp.youtube.com/watch?v=DgFNslmBs_s
Ski Gliding & Downhill on the Mt. Fuji
http://jp.youtube.com/watch?v=bM3gqrFxAX0